



RFC 1724 MIB 拡張を使用した SNMP による RIPv2 監視

このマニュアルでは、RFC 1724『*RIP Version 2 MIB Extensions*』の Cisco IOS XE での実装について説明します。RFC 1724 では、Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) を使用して RIPv2 を監視できる Management Information Base (MIB; 管理情報ベース) を定義しています。

機能情報の確認

最新の機能情報と注意事項については、ご使用のプラットフォームとソフトウェア リリースに対応したリリース ノートを参照してください。このモジュールで説明される機能に関する情報、および各機能がサポートされるリリースの一覧については、「RFC 1724 MIB 拡張を使用した SNMP による RIPv2 監視に関する機能情報」(P.13) を参照してください。

プラットフォームのサポートおよび Cisco IOS XE ソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> からアクセスします。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

目次

- 「RFC 1724 MIB 拡張を使用した SNMP による RIPv2 監視の前提条件」(P.2)
- 「RFC 1724 MIB 拡張を使用した SNMP による RIPv2 監視の制約事項」(P.2)
- 「RFC 1724 MIB 拡張を使用した SNMP による RIPv2 監視に関する情報」(P.2)
- 「RFC 1724 MIB 拡張を使用した SNMP による RIPv2 監視をイネーブルにする方法」(P.6)
- 「RIPv2 を使用した SNMP による RIPv2 監視の設定例 : RFC1724 MIB 拡張」(P.8)
- 「関連情報」(P.10)
- 「その他の関連資料」(P.10)
- 「RFC 1724 MIB 拡張を使用した SNMP による RIPv2 監視に関する機能情報」(P.13)
- 「用語集」(P.14)



RFC 1724 MIB 拡張を使用した SNMP による RIPv2 監視の前提条件

- ルータで RIPv2 が設定されている必要があります。
- SNMP Network Management Station (NMS; ネットワーク管理ステーション) に RFC 1724 RIPv2 MIB がインストールされている必要があります。
- SNMP NMS に次の MIB がインストールされている必要があります。RFC 1724 ではこの MIB からデータ タイプと Object Identifier (OID; オブジェクト ID) をインポートするためです。
 - SNMPv2-SMI
 - SNMPv2-TC
 - SNMPv2-CONF
 - RFC1213-MIB

RFC 1724 MIB 拡張を使用した SNMP による RIPv2 監視の制約事項

この RIPv2 MIB の実装では、RIP Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンスに関連するデータを追跡しません。RIP ルータ コンフィギュレーション モードの **network** コマンドで設定された IP アドレス空間で IP アドレスが割り当てられたインターフェイスのみが追跡されます。グローバル データは、メイン ルーティング テーブルの変更についてのみ追跡されます。

RFC 1724 MIB 拡張を使用した SNMP による RIPv2 監視に関する情報

ここでは、RFC 1724 の一部として標準化された MIB オブジェクトに関する情報と、RFC 1724 MIB の利点について説明します。

- 「RIPv2 MIB」(P.2)
- 「RIPv2 MIB の利点」(P.5)

RIPv2 MIB

ここでは、RFC 1724 の定義によって追加された MIB オブジェクトについて説明します。RIPv2 MIB は次の管理対象オブジェクトから構成されます。

- グローバル カウンタ：ルートの変更やネイバーの変更を追跡するために使用されます。
- インターフェイス ステータス テーブル：インターフェイスに固有の統計情報を追跡するために使用されるオブジェクトを定義します。
- インターフェイス設定テーブル：インターフェイス設定の統計情報を追跡するために使用されるオブジェクトを定義します。
- ピア テーブル：ネイバー関係を監視するために定義します。このオブジェクトは、Cisco IOS XE ソフトウェアでは実装されません。

表 1、表 2、および表 3 に、RFC 1724 RIPv2 MIB 定義に提供されるオブジェクトを示します。RFC 1724 RIPv2 MIB に記述されている順序で、オブジェクトが書き込まれるテーブルごとに示してあります。グローバルカウンタのすべてのオブジェクトに関する統計情報は、**snmpwalk** または同様の SNMP ツールセット コマンドを NMS で使用して、rip2Globals Object Identifier (OID; オブジェクト ID) を照会することで取得できます。

表 1 に、RFC 1724 RIPv2 MIB グローバルカウンタ オブジェクトを示します。

表 1 RFC 1724 RIPv2 MIB グローバルカウンタ オブジェクト

グローバルカウンタ	オブジェクト	説明
rip2Globals	rip2GlobalRouteChanges	RIP によって IP ルートデータベースに加えられたルート変更の数。ルートが変更されると、数は増加します。
	rip2GlobalQueries	他のシステムからの RIP クエリーに送信される応答の数。別のシステムからのクエリーに対して RIP が応答すると、数は増加します。

RFC 1724 RIPv2 MIB インターフェイス テーブルのオブジェクトは、インターフェイスごとに情報を追跡します。rip2IfStatAddress オブジェクトを除く RFC 1724 RIPv2 MIB インターフェイス テーブルのすべてのオブジェクトは、RIP 内で新しく追跡されるデータを表します。これらのオブジェクトについて同等の **show** コマンドはありません。RIPv2 MIB インターフェイス テーブルのすべてのオブジェクトは読み取り専用です。

表 2 に、RFC 1724 RIPv2 MIB インターフェイス テーブル オブジェクトを示します。インターフェイス テーブルのすべてのオブジェクトの統計情報は、**snmpwalk** または同様の SNMP ツールセットを NMS で使用して、シーケンス名 **Rip2IfStatEntry** を照会することで取得できます。

表 2 RFC 1724 RIPv2 MIB インターフェイス テーブル オブジェクト

シーケンス名	オブジェクト	説明
Rip2IfStatEntry	rip2IfStatAddress	指定したサブネットでのこのシステムの IP アドレス。番号が指定されていないインターフェイスの場合は 0.0.0.N の値。この最下位の 24 ビット (N) は、ネットワークバイト順の IP インターフェイスの ifIndex です。
	rip2IfStatRcvBadPackets	RIP プロセスで受信され、何らかの理由でその後に廃棄された RIP 応答パケットの数。たとえば、バージョン 0 パケットまたは不明なコマンドタイプの場合です。
	rip2IfStatRcvBadRoutes	有効な RIP パケットに含まれ、何らかの理由で無視されたルートの数。この数は、次の場合に増加されます。 <ul style="list-style-type: none"> • アドレス ファミリ ID が AF_INET と同じではない場合。 • RIP v2 アップデートが受信され、クラス D 以上の場合。 • RIP v2 アップデートが受信され、アドレスが martian アドレスの場合。
	rip2IfStatSentUpdates	このインターフェイスで実際に送信された、トリガーされた RIP アップデートの数。この数には、新しい情報を含むフルアップデートは明示的に含まれません。
	rip2IfStatStatus	この値は常に 1 に設定されます。

RFC 1724 RIPv2 MIB インターフェイス設定テーブルのオブジェクトは、インターフェイスごとに情報を追跡します。Rip2IfConfAuthType オブジェクトを除き、RFC 1724 RIPv2 MIB インターフェイス設定テーブルのオブジェクトのデータは、**show ip protocol** コマンドでも収集できます。RIPv2 MIB インターフェイス テーブルのすべてのオブジェクトは読み取り専用です。

表 3 に、RIPv2 MIB インターフェイス設定テーブル オブジェクトを示します。設定テーブルのすべてのオブジェクトの統計情報は、**snmpwalk** または同様の SNMP ツールセットを NMS で使用して、シーケンス名 **rip2IfConfEntry** を照会することで取得できます。

表 3 RFC 1724 RIPv2 MIB インターフェイス設定テーブル オブジェクト タイプ

シーケンス名	オブジェクト タイプ	説明
rip2IfConfEntry	rip2IfConfAddress	指定したサブネットでのこのシステムの IP アドレス。番号が指定されていないインターフェイスの場合は 0.0.0.N の値。この最下位の 24 ビット (N) は、ネットワークバイト順の IP インターフェイスの ifIndex です。
	rip2IfConfDomain	この値は常に "" と等価です。
	rip2IfConfAuthType	このインターフェイスで使用される認証のタイプ。
	rip2IfConfAuthKey	対応する rip2IfConfAuthType のインスタンスが認証以外の値を持つ場合に、認証キーとして使用される値。
	rip2IfConfSend	このインターフェイスで送信される RIP アップデートのバージョン。
	rip2IfConfReceive	このインターフェイスで受け入れられる RIP アップデートのバージョン。
	rip2IfConfDefaultMetric	この変数は、このインターフェイスで開始される RIP アップデートのデフォルトルート エントリに使用されるメトリックを示します。
	rip2IfConfStatus	この値は常に 1 に設定されます。
	rip2IfConfSrcAddress	このシステムがこのインターフェイスで送信元アドレスとして使用する IP アドレス。番号が指定されたインターフェイスの場合、この値は rip2IfConfAddress と同じにする必要があります。番号が指定されていないインターフェイスでは、システム上のいずれかのインターフェイスの rip2IfConfAddress 値にする必要があります。

RIPv2 MIB の利点

ネットワーク管理者は RFC 1724 RIPv2 MIB 拡張を使用して、以前は RFC 1389 RIPv2 MIB でサポートされていなかった新しいグローバル カウンタおよびテーブル オブジェクトを追加することで、SNMP を使用して RIPv2 ルーティング プロトコルを監視できます。新しいグローバル カウンタおよびテーブル オブジェクトの目的は、ルートの変更とネイバーの放棄を迅速に行うことです。

RFC 1724 MIB 拡張を使用した SNMP による RIPv2 監視をイネーブルにする方法

ここでは、次の作業について説明します。

- 「ルータでの SNMP 読み取り専用アクセスのイネーブル化」(P.6) (必須)
- 「RIPv2 のステータスの確認：ルータおよびネットワーク管理ステーションでの RFC1724 MIB 拡張」(P.7) (任意)

ルータでの SNMP 読み取り専用アクセスのイネーブル化

RFC 1724 MIB 拡張を使用した SNMP による RIPv2 監視機能自体に必要なルータ設定作業はありません。RFC 1724 RIPv2 MIB のオブジェクトに対する SNMP 読み取り専用アクセスをイネーブルにするのは、ルータで SNMP サーバ読み取り専用コミュニティ ストリングを設定する場合です。



(注)

ルータで SNMP サーバ読み取り専用コミュニティ ストリングを設定すると、そのルータで実行されている Cisco IOS XE のバージョンで使用できるすべての MIB の読み取り専用アクセスをサポートするオブジェクトに対して、SNMP の読み取り専用アクセスを付与することになります。

この作業を実行して、SNMP サーバ読み取り専用コミュニティ ストリングをルータで設定して、ルータ上の MIB オブジェクト (RFC 1724 RIPv2 MIB 拡張を含みます) に対する SNMP 読み取り専用アクセスをイネーブルにします。

SNMP コミュニティ ストリング

ルータは、複数の読み取り専用 SNMP コミュニティ ストリングを持つことができます。ルータで **snmp-server** コマンドの SNMP 読み取り専用コミュニティ ストリングを設定した場合、既存の SNMP **snmp-server** 読み取り専用コミュニティ ストリングは上書きされません。たとえば、**snmp-server community string1 ro** および **snmp-server community string2 ro** コマンドをルータで入力すると、ルータは *string1* および *string2* という 2 つの有効な読み取り専用コミュニティ ストリングを持ちます。これが目的の動作ではない場合、**no snmp-server community string ro** コマンドを使用して、既存の SNMP 読み取り専用コミュニティ ストリングを削除します。



ワンポイントアドバイス

ルータで SNMP 読み取り専用コミュニティ ストリングが設定済みの場合、この作業を実行する必要はありません。ルータに Cisco IOS XE Release 2.1 以降のリリースをロードした後は、NMS で SNMP コマンドを使用して、ルータ上の RFC 1724 RIPv2 MIB を照会できます。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **snmp-server community string1 ro**
4. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>enable</code> 例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じてパスワードを入力します。
ステップ2	<code>configure terminal</code> 例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>snmp-server community string1 ro</code> 例： Router(config)# snmp-server community T8vCx3 ro	ルータで実行されている Cisco IOS XE ソフトウェアのバージョンに含まれる MIB のオブジェクトに対して、SNMP 読み取り専用アクセスをイネーブルにします。 (注) セキュリティのために、読み取り専用コミュニティ スtring には標準のデフォルト値である <i>public</i> を使用しないでください。パスワードには、大文字、小文字、および数字を組み合わせて使用します。
ステップ4	<code>end</code> 例： Router(config)# end	コンフィギュレーション セッションを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

RIPv2 のステータスの確認：ルータおよびネットワーク管理ステーションでの RFC1724 MIB 拡張

このオプション作業を NMS で実行して、ルータおよび NMS で RFC 1724 RIPv2 MIB 拡張のステータスを確認します。



(注) この作業では、パブリック ドメインで使用できる NET-SNMP ツールセットを使用します。この説明の手順では、Linux 上で実行されている NMS のターミナルセッションを使用します。この作業を実行するときに、必要に応じて、NMS 上の SNMP ツールセットから SNMP コマンドを代用します。

前提条件

NMS に RFC 1724 MIB がインストールされている必要があります。

手順の概要

1. `snmpwalk -m all -v2c ip-address -c read-only-community-string rip2Globals`

手順の詳細

ステップ 1 `snmpwalk -m all -v2c ip-address -c read-only-community-string rip2Globals`

RFC 1724 RIPv2 MIB の `rip2Globals` オブジェクトについて `snmpwalk` コマンドを使用して、そのオブジェクトに関連するオブジェクトのデータを表示します。この手順では、RFC 1724 RIPv2 MIB のオブジェクトに関するクエリーを送信するように NMS が設定され、そのクエリーに対して応答するようにルータが設定されていることを確認します。

```
$ snmpwalk -m all -v2c 10.0.0.253 -c T8vCx3 rip2Globals
```

```
RIPv2-MIB::rip2GlobalRouteChanges.0 = Counter32: 5
```

```
RIPv2-MIB::rip2GlobalQueries.0 = Counter32: 1
```

```
$
```

RIPv2 を使用した SNMP による RIPv2 監視の設定例：RFC1724 MIB 拡張

ここでは、次の例について説明します。

- 「RIP インターフェイス ステータス テーブル オブジェクトの照会：例」(P.8)
- 「RIP インターフェイス設定テーブル オブジェクトの照会：例」(P.9)

RIP インターフェイス ステータス テーブル オブジェクトの照会：例

次に、`snmpwalk` コマンドを使用して、SNMP クエリーを送信し、RIP インターフェイス ステータス テーブルに含まれるすべてのオブジェクトのデータを取得する例を示します。

```
$ snmpwalk -m all -v2c 10.0.0.253 -c T8vCx3 Rip2IfStatEntry
```

```
RIPv2-MIB::rip2IfStatAddress.10.0.0.253 = IPAddress: 10.0.0.253
RIPv2-MIB::rip2IfStatAddress.172.16.1.1 = IPAddress: 172.16.1.1
RIPv2-MIB::rip2IfStatAddress.172.16.2.1 = IPAddress: 172.16.2.1
RIPv2-MIB::rip2IfStatAddress.172.17.1.1 = IPAddress: 172.17.1.1
RIPv2-MIB::rip2IfStatAddress.172.17.2.1 = IPAddress: 172.17.2.1
RIPv2-MIB::rip2IfStatRcvBadPackets.10.0.0.253 = Counter32: 0
RIPv2-MIB::rip2IfStatRcvBadPackets.172.16.1.1 = Counter32: 1654
RIPv2-MIB::rip2IfStatRcvBadPackets.172.16.2.1 = Counter32: 1652
RIPv2-MIB::rip2IfStatRcvBadPackets.172.17.1.1 = Counter32: 1648
RIPv2-MIB::rip2IfStatRcvBadPackets.172.17.2.1 = Counter32: 1649
RIPv2-MIB::rip2IfStatRcvBadRoutes.10.0.0.253 = Counter32: 0
RIPv2-MIB::rip2IfStatRcvBadRoutes.172.16.1.1 = Counter32: 0
RIPv2-MIB::rip2IfStatRcvBadRoutes.172.16.2.1 = Counter32: 0
RIPv2-MIB::rip2IfStatRcvBadRoutes.172.17.1.1 = Counter32: 0
RIPv2-MIB::rip2IfStatRcvBadRoutes.172.17.2.1 = Counter32: 0
RIPv2-MIB::rip2IfStatSentUpdates.10.0.0.253 = Counter32: 0
RIPv2-MIB::rip2IfStatSentUpdates.172.16.1.1 = Counter32: 0
RIPv2-MIB::rip2IfStatSentUpdates.172.16.2.1 = Counter32: 0
RIPv2-MIB::rip2IfStatSentUpdates.172.17.1.1 = Counter32: 0
RIPv2-MIB::rip2IfStatSentUpdates.172.17.2.1 = Counter32: 0
RIPv2-MIB::rip2IfStatStatus.10.0.0.253 = INTEGER: active (1)
RIPv2-MIB::rip2IfStatStatus.172.16.1.1 = INTEGER: active (1)
RIPv2-MIB::rip2IfStatStatus.172.16.2.1 = INTEGER: active (1)
RIPv2-MIB::rip2IfStatStatus.172.17.1.1 = INTEGER: active (1)
RIPv2-MIB::rip2IfStatStatus.172.17.2.1 = INTEGER: active (1)
```


次に、**snmpwalk** コマンドを使用して、SNMP クエリーを送信し、RIP インターフェイス ステータス テーブルに含まれるすべてのインターフェイスの **rip2IfStatStatus** オブジェクトのデータを取得する例を示します。

```
$ snmpwalk -m all -v2c 10.0.0.253 -c T8vCx3 rip2IfStatStatus

RIPv2-MIB::rip2IfStatStatus.10.0.0.253 = INTEGER: active(1)
RIPv2-MIB::rip2IfStatStatus.172.16.1.1 = INTEGER: active(1)
RIPv2-MIB::rip2IfStatStatus.172.16.2.1 = INTEGER: active(1)
RIPv2-MIB::rip2IfStatStatus.172.17.1.1 = INTEGER: active(1)
RIPv2-MIB::rip2IfStatStatus.172.17.2.1 = INTEGER: active(1)
$
```

次に、**snmpget** コマンドを使用して、SNMP クエリーを送信し、RIP インターフェイス ステータス テーブルに含まれる特定のインターフェイス IP アドレスの **rip2IfStatStatus** オブジェクトのデータを取得する例を示します。

```
$ snmpget -m all -v2c 10.0.0.253 -c T8vCx3 rip2IfStatStatus.10.0.0.253

RIPv2-MIB::rip2IfStatStatus.10.0.0.253 = INTEGER: active(1)
$
```

RIP インターフェイス設定テーブル オブジェクトの照会 : 例

次に、**snmpwalk** コマンドを使用して、SNMP クエリーを送信し、RIP インターフェイス設定テーブルに含まれるすべてのオブジェクトのデータを取得する例を示します。

```
$ snmpwalk -m all -v2c 10.0.0.253 -c T8vCx3 rip2IfConfEntry

RIPv2-MIB::rip2IfConfAddress.10.0.0.253 = IpAddress: 10.0.0.253
RIPv2-MIB::rip2IfConfAddress.172.16.1.1 = IpAddress: 172.16.1.1
RIPv2-MIB::rip2IfConfAddress.172.16.2.1 = IpAddress: 172.16.2.1
RIPv2-MIB::rip2IfConfAddress.172.17.1.1 = IpAddress: 172.17.1.1
RIPv2-MIB::rip2IfConfAddress.172.17.2.1 = IpAddress: 172.17.2.1
RIPv2-MIB::rip2IfConfDomain.10.0.0.253 = ""
RIPv2-MIB::rip2IfConfDomain.172.16.1.1 = ""
RIPv2-MIB::rip2IfConfDomain.172.16.2.1 = ""
RIPv2-MIB::rip2IfConfDomain.172.17.1.1 = ""
RIPv2-MIB::rip2IfConfDomain.172.17.2.1 = ""
RIPv2-MIB::rip2IfConfAuthType.10.0.0.253 = INTEGER: noAuthentication(1)
RIPv2-MIB::rip2IfConfAuthType.172.16.1.1 = INTEGER: noAuthentication(1)
RIPv2-MIB::rip2IfConfAuthType.172.16.2.1 = INTEGER: noAuthentication(1)
RIPv2-MIB::rip2IfConfAuthType.172.17.1.1 = INTEGER: noAuthentication(1)
RIPv2-MIB::rip2IfConfAuthType.172.17.2.1 = INTEGER: noAuthentication(1)
RIPv2-MIB::rip2IfConfAuthKey.10.0.0.253 = ""
RIPv2-MIB::rip2IfConfAuthKey.172.16.1.1 = ""
RIPv2-MIB::rip2IfConfAuthKey.172.16.2.1 = ""
RIPv2-MIB::rip2IfConfAuthKey.172.17.1.1 = ""
RIPv2-MIB::rip2IfConfAuthKey.172.17.2.1 = ""
RIPv2-MIB::rip2IfConfSend.10.0.0.253 = INTEGER: ripVersion2(4)
RIPv2-MIB::rip2IfConfSend.172.16.1.1 = INTEGER: ripVersion2(4)
RIPv2-MIB::rip2IfConfSend.172.16.2.1 = INTEGER: ripVersion2(4)
RIPv2-MIB::rip2IfConfSend.172.17.1.1 = INTEGER: ripVersion2(4)
RIPv2-MIB::rip2IfConfSend.172.17.2.1 = INTEGER: ripVersion2(4)
RIPv2-MIB::rip2IfConfReceive.10.0.0.253 = INTEGER: rip2(2)
RIPv2-MIB::rip2IfConfReceive.172.16.1.1 = INTEGER: rip2(2)
RIPv2-MIB::rip2IfConfReceive.172.16.2.1 = INTEGER: rip2(2)
RIPv2-MIB::rip2IfConfReceive.172.17.1.1 = INTEGER: rip2(2)
RIPv2-MIB::rip2IfConfReceive.172.17.2.1 = INTEGER: rip2(2)
RIPv2-MIB::rip2IfConfDefaultMetric.10.0.0.253 = INTEGER: 1
```

```

RIPv2-MIB::rip2IfConfDefaultMetric.172.16.1.1 = INTEGER: 1
RIPv2-MIB::rip2IfConfDefaultMetric.172.16.2.1 = INTEGER: 1
RIPv2-MIB::rip2IfConfDefaultMetric.172.17.1.1 = INTEGER: 1
RIPv2-MIB::rip2IfConfDefaultMetric.172.17.2.1 = INTEGER: 1
RIPv2-MIB::rip2IfConfStatus.10.0.0.253 = INTEGER: active(1)
RIPv2-MIB::rip2IfConfStatus.172.16.1.1 = INTEGER: active(1)
RIPv2-MIB::rip2IfConfStatus.172.16.2.1 = INTEGER: active(1)
RIPv2-MIB::rip2IfConfStatus.172.17.1.1 = INTEGER: active(1)
RIPv2-MIB::rip2IfConfStatus.172.17.2.1 = INTEGER: active(1)
RIPv2-MIB::rip2IfConfSrcAddress.10.0.0.253 = IpAddress: 10.0.0.253
RIPv2-MIB::rip2IfConfSrcAddress.172.16.1.1 = IpAddress: 172.16.1.1
RIPv2-MIB::rip2IfConfSrcAddress.172.16.2.1 = IpAddress: 172.16.2.1
RIPv2-MIB::rip2IfConfSrcAddress.172.17.1.1 = IpAddress: 172.17.1.1
RIPv2-MIB::rip2IfConfSrcAddress.172.17.2.1 = IpAddress: 172.17.2.1
$

```

次に、`snmpwalk` コマンドを使用して、SNMP クエリーを送信し、RIP インターフェイス設定テーブルに含まれるすべてのインターフェイスの `rip2IfConfAddress` オブジェクトのデータを取得する例を示します。

```

$ snmpwalk -m all -v2c 10.0.0.253 -c T8vCx3 rip2IfConfAddress

RIPv2-MIB::rip2IfConfAddress.10.0.0.253 = IpAddress: 10.0.0.253
RIPv2-MIB::rip2IfConfAddress.172.16.1.1 = IpAddress: 172.16.1.1
RIPv2-MIB::rip2IfConfAddress.172.16.2.1 = IpAddress: 172.16.2.1
RIPv2-MIB::rip2IfConfAddress.172.17.1.1 = IpAddress: 172.17.1.1
RIPv2-MIB::rip2IfConfAddress.172.17.2.1 = IpAddress: 172.17.2.1
$

```

関連情報

SNMP および SNMP 操作の詳細については、『[Cisco IOS XE Network Management Configuration Guide, Release 2](#)』の「[Configuring SNMP Support](#)」の章を参照してください。

その他の関連資料

ここでは、RFC 1724 MIB 拡張を使用した SNMP による RIPv2 監視に関連する関連資料を紹介しません。

関連マニュアル

内容	参照先
RIP コンフィギュレーション	「Configuring Routing Information Protocol」
RIP コマンド	『Cisco IOS IP Routing: RIP Command Reference』
SNMP の設定	「Configuring SNMP Authentication」
SNMP コマンド	『Cisco IOS Network Management Command Reference』

標準

標準	タイトル
この機能によりサポートされた新規標準または改訂標準はありません。またこの機能による既存標準のサポートに変更はありません。	—

MIB

MIB	MIB リンク
RIPv2 MIB	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース、およびフィーチャ セットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p>http://www.cisco.com/go/mibs</p>

RFC

RFC	タイトル
RFC 1724	『RIP Version 2 MIB Extensions』

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。</p> <p>以下を含むさまざまな作業にこの Web サイトが役立ちます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • テクニカル サポートを受ける • ソフトウェアをダウンロードする • セキュリティの脆弱性を報告する、またはシスコ製品のセキュリティ問題に対する支援を受ける • ツールおよびリソースへアクセスする <ul style="list-style-type: none"> – Product Alert の受信登録 – Field Notice の受信登録 – Bug Toolkit を使用した既知の問題の検索 • Networking Professionals (NetPro) コミュニティで、技術関連のディスカッションに参加する • トレーニング リソースへアクセスする • TAC Case Collection ツールを使用して、ハードウェアや設定、パフォーマンスに関する一般的な問題をインタラクティブに特定および解決する <p>この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p>http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</p>

RFC 1724 MIB 拡張を使用した SNMP による RIPv2 監視に関する機能情報

表 4 に、この機能のリリース履歴を示します。

プラットフォーム サポートとソフトウェア イメージ サポートに関する情報を入手するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator を使用すると、特定のソフトウェア リリース、フィーチャ セット、またはプラットフォームをサポートする Cisco IOS XE のソフトウェア イメージを判別できます。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> からアクセスします。Cisco.com のアカウントは必要ありません。



(注) 表 4 に、特定の Cisco IOS XE ソフトウェア リリース群で特定の機能をサポートする Cisco IOS XE ソフトウェア リリースだけを示します。特に明記されていない限り、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース群の後続のリリースでもこの機能をサポートします。

表 4 RIPv2 に関する機能情報 : RFC 1724 MIB 拡張

機能名	リリース	機能情報
RIPv2 : RFC 1724 MIB 拡張	Cisco IOS XE Release 2.1	この機能によって、RFC 1724 『 <i>RIP Version 2 MIB Extensions</i> 』の Cisco IOS XE の実装が導入されました。RFC 1724 では、SNMP を使用した RIPv2 の管理および制限された制御を可能にする MIB オブジェクトを定義しています。 Cisco IOS XE Release 2.1 では、この機能は Cisco ASR 1000 シリーズ ルータに導入されました。

用語集

OID : Object Identifier (オブジェクト ID)。オブジェクト ツリー内の管理対象オブジェクト。

SNMP : Simple Network Management Protocol (簡易ネットワーク管理プロトコル)。ネットワーク管理デバイスの監視および管理に使用されるプロトコル。

snmpwalk : MIB のブランチから統計情報を照会する SNMP コマンド。

snmpget : MIB 内の特定の OID から統計情報を照会する SNMP コマンド。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at www.cisco.com/go/trademarks. Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

© 2006–2009 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

Copyright © 2006–2011, シスコシステムズ合同会社 .
All rights reserved.